

【別紙2】

大阪市立加美南部小学校 令和元年度校長経営戦略支援予算【加算配付】 実施報告書 (補足説明資料)

加算配付について

1. 取組内容について

- ・ICT機器を活用し、すべての児童の「わかる・できた」をめざした授業づくりに努める。
- ・少人数指導（TT. 習熟度）等の指導法の研究や指導力の向上に取り組む。

(1) 取組を実施する必要性

本校では、児童の基礎学力の確実な定着、「わかりやすい授業」、教員の指導力向上に向けて、研究教科を「算数」と定め、主体的・対話的で深い学びをする児童の育成をめざし、校内研究に取り組んでいる。また、昨年度まで2年間を通して、児童の基礎学力の定着につながる読書力向上に向けて、学校図書館の整備と読書活動の充実に努めてきた。学校図書館の蔵書の分類、整理等がすすみ、児童のよりよい読書習慣が定着したが、小学校学力経年調査の標準化得点において、すべての学年が大阪市平均を下回っており、児童の基礎学力の定着につながったとは言えない。依然として、家庭学習習慣や自主学習習慣など、自ら進んで意欲的に学習することに課題があると考える。

今年度は、授業において、ICT機器（タブレット・電子黒板等）の積極的な活用に努める。画像・映像等による児童の視覚的認知をすすめる、また、児童間での学び合い等を通して、児童の学習意欲を高め、学力向上を図りたい。

(2) 取組を実施することにより期待できる効果

授業において、ICT機器（簡易実物投影機等）の積極的な活用に努め、画像・映像等による児童の視覚的認知を高めることで、児童の学習意欲や学力の向上につなげる。

(3) 具体的な実施内容

- ・各学級、学習室等で、ICT機器（タブレット・電子黒板等）を活用した学習活動等を毎月2回以上実施する

- ・教員の公開授業を年間15回以上実施する。
- ・教育指導員等を指導要請し、研究授業（年3回）・研究協議を実施する。

(4) 取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

取組に対する達成状況：B

評価理由

- ・校長経営戦略支援予算【加算配付】で購入した書画カメラの活用をはじめ、ICT機器（電子黒板、タブレット等）を活用し、「わかりやすい授業」づくりに努めた。

- ・校内研修計画に基づき、研究授業・公開授業等（26回）を実施した。
- ・大阪市教育センター、大阪市小学校研究会区内研究理事等に指導要請した研究授業・研究協議（4回）を実施した。

2. 総論

(1) 年度目標の達成状況、総評

- ・平成 31 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

平成 30 年度 3 年 : 97.2 令和元年度 4 年 : 97.8

目標を上回って達成した

平成 30 年度 4 年 : 98.9 令和元年度 5 年 : 103.2

目標を上回って達成した

平成 30 年度 5 年 : 98.9 令和元年度 6 年 : 102.4

目標を上回って達成した

- ・平成 31 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。

平成 30 年度 : 63.7% 令和元年度 : 63.0%

取り組んだが目標を達成することができなかった

- ・平成 31 年度「児童アンケート」における「授業はわかりやすい」の質問に肯定的回答をする児童の割合を 75% 以上にする。

1 学期末 : 84.7% 2 学期末 : 86.6%

目標を上回って達成した

以上の結果から、年度目標に対する達成状況を「B」とした。

子どもの基礎学力の確実な定着、「授業の充実」、教員の指導力向上に向けての授業研究が活性化したことや、また、授業において、ICT 機器（簡易実物投影機等）の積極的な活用に努め、画像・映像等による児童の視覚的認知を高めることで、児童の学習意欲や学力の向上につながったといえる。

(2) 学校協議会における意見

子どもの基礎学力の確実な定着、「授業の充実」、教員の指導力向上に向けて、研究教科を「算数」と定め、主体的・対話的で深い学びをする児童の育成をめざした校内研究が、一定の成果を上げているといえる。

今後も、子どもたちが、自ら進んで意欲的に学習することができるよう、授業での積極的なタブレットや ICT 機器（電子黒板、書画カメラ等）の活用を図ることで、子どもたちの学習意欲を高め、自主学習習慣づくりをすすめてほしい。